

スマートフォンを活用した市民レポートにより、地域の身近な課題を合理的に解決



問い合わせ先 千葉市市民局市民自治推進部広報広聴課
 ☎ 043-245-5294 <http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo.html>

市民と行政をつなぐ新たなコミュニケーションツールとして、市民がスマートフォンを活用して、身近にある地域の課題について、現場写真や動画などのレポートを市に送信し、市と市民、市民と市民の間で迅速に共有し、合理的・効果的に解決する仕組みにより、市民活動、地域の一体感を醸成

サポーター活動により解決した事例

●落書き消し



落書きにより、街の美観が損なわれている(解決前)



サポーター活動により、落書きが消された状態(解決後)

●草刈り



雑草が茂り、見通しが悪く危険(解決前)



サポーター活動により、雑草が刈り取られた状態(解決後)

取組の背景 少子高齢化に対応した行政サービスの確保が課題に

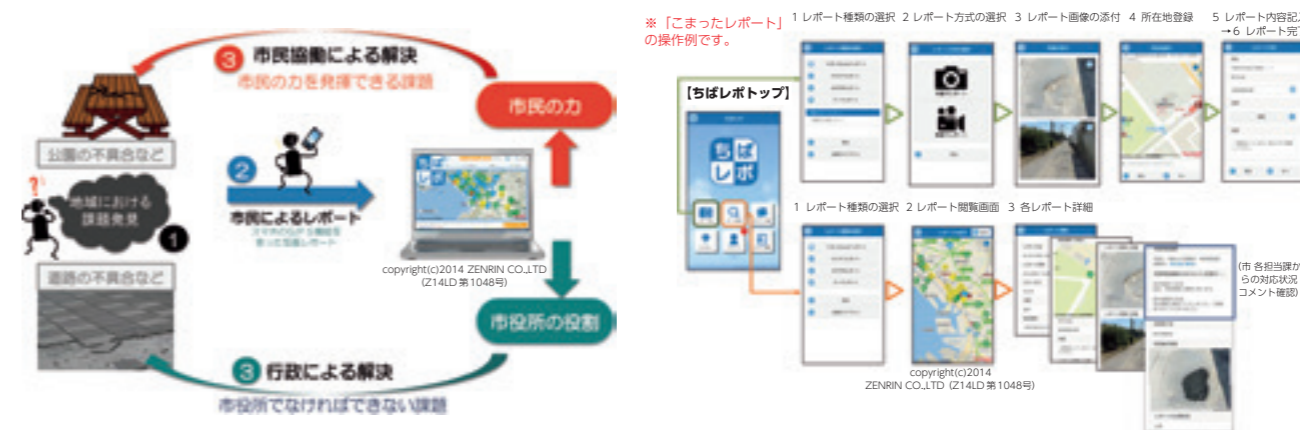
- 千葉市の人口は、968,000人(平成27年10月現在)となっているが、少子高齢化の進展により2020年をピークに人口が減少に転じると見通される中で、税収の減少や市職員の減少に伴う、将来の行政サービスの低下が懸念されていた。また、住民の自治会加入率の低下などにより、地域のことを地域に住む住民が考え、課題解決に取り組む「地域力」が落ちてきており、今後、市民の協働を高めていくための手法が求められていた。
- このような中、道路の傷みや公園遊具の破損などの地域の身近な課題に対しては、市民からの通報を受けて、市が対応していたが、場所の特定、破損などの状況確認に時間がかかっていた。

取組の概要 スマホを活用し、市民が参加しやすく、効果的に解決する仕組みを構築

- 千葉市は、全国に先駆け、ICTを活用して市民と行政、市民と市民が力を合わせて解決を図る、市民協働によるまちづくりを目指し、平成25年に「ちばレポ(ちば市民協働レポート)」を開始した。

- 「ちばレポ」とは、
 - ①市民がスマートフォンを活用して、市内で起きている様々な地域の課題(道路が傷んでいる、公園の遊具が壊れているなど)を写真や動画で撮影し、位置情報付きのレポートを送信し、これを市が受け付け、専用WEB上で市民と共有する
 - ②レポートは、行政でなければ解決できない課題と、市民の力によって解決できる課題に切り分け、市民の力で解決できる課題は市民に委ねる仕組みとして、自らが課題の解決者として参加するサポーターとなり、「市民協働案件」として参画することができるという取組である。
- 平成27年9月現在、レポートから受付までは約3日、課題解決までは約18日に対応しており、解決済みは84%となっている。

「ちばレポ」の枠組みと利用方法



取組の成果 市民が気軽にまちづくりに参加でき、市民主体の協働も進展

- 平成27年10月現在、約3,300人の市民がレポーターとして登録し、約1,800件のレポートが寄せられ、気軽にまちづくりに参加できるツールとして市民への浸透が着実に進んでいる。
- 市民がまちを意識する中、従来の行政主導型ではなく、市民協働によるまちづくりを目指そうとする市民団体「ちばレポ市民の会」が自発的に発足し、市民目線でちばレポを発展させようとする普及活動も行われている。
- 企業などのCSR活動の一環として、ちばレポの趣旨に賛同した12の企業などと連携の覚書を締結しており、協力企業は事業所周辺の課題解決やちばレポの普及促進などを行っている。

地方分権改革との関係

- ICTを活用した市民レポートにより、市民生活に身近な地域課題を迅速に行政が把握し、それらの情報を可視化・共有化し、市民の協働・参画を活かした新たな行政サービスとなっている。
- 市民にとっても、まちづくりへの参加意識の向上につながるなど、住民自治を促す役割を果たしている。